

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

平成31年2月1日(金)

2月号 児童数 889名

TEL:048-461-0410



【学校教育目標】「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合言葉】～花あり 歌あり 笑顔あり～



「青は藍より出でて藍より青し」

校長 木村 直美

1月18日、5年生が社会科校外学習として、「自動車工場の見学」と、伝統工芸の「藍染め」体験を行いました。事前に学習をしたり、学級で工夫して関連クイズを出題したりして、ある程度の知識を得てから校外学習に参加したことはとても有意義でした。しかし、百聞は一見に如かず、見たり聞いたりしているだけではよくわからないと実感できたことがたくさんありました。ここでは、「藍染め」について紹介します。

日本では、タデアイというタデ科の植物から藍が作られています。藍染めは、古くから行われていたと推測されますが、近世になって木綿が広がったことに伴い、全国で盛んにタデアイが栽培され、染められるようになりました。江戸時代には阿波の国(現在の徳島県)が最大の産地でした。明治以降も藍作は行われ、北海道から九州までで栽培されるようになりました。しかし、その後、インドから安価なインド藍が輸入され始め、明治後期からは人造藍の輸入も増えて、日本の藍づくりは衰退の一途をたどりました。それでも今、天然藍の持つ美しさや風合いがまた見直されているところです。

子供たちも、興味津々で、職人さんの指導を受けながら、一生懸命に布を絞っていました。絞りやすいように輪ゴムを使いました。今年の5年生は、創作意欲が旺盛で、サンプルとして紹介されたものをいかしたり発展させたり、まったく別のものを創作したりと、とても楽しそうでした。

藍の液に布をつけて、揉みこんでいくときは、水の冷たさに悲鳴をあげそうになりました。緑色に染まった布は、絞った後、干して風にさらすと、青く変わりました。その青さに、子供たちは歓声を響かせていました。そしてまた、冷水で布を洗う。風の冷たさと水の冷たさに耐えきれない様子でした。

手がしびれるような冷たさ、酸化して緑色から青色に布が変化していくときの感動。一人一人が個性的な作品をつくり、一つとして同じものではなく、確実に自分の手に、自分が作った作品が残る。

体験したからこそ、学ぶものがあり、作り上げたからこそ、達成感があります。作品を広げながら、嬉しそうに披露しあう子供たちの表情は輝いていました。

「青は藍より出でて藍より青し」

藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となる。その関係を弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を超えるということわざですが、これは、「人は、学問や努力により、持って生まれた資質を越えることができる」という意味です。子供たちは、まさに今、学んで育つ時期です。

